

点訳通信 第23号

日本ライトハウス  
盲人情報文化センター

点字製作係  
〒550 大阪市西区江戸堀1-13-2  
TEL 06-441-0015

私 の 点 訳 ラ イ フ

私の点訳ライフ

今川裕美子

手早く家事をすませ、香り高いコーヒーなど味わって、さてパソコンに向かいましょう…というのが理想的な点訳ライフといえるでしょうか。

残念ながら私の場合、現実をはるかに見苦しく、というより、おしゃべり大好き、なんでもやってみたり、家事はもうひとつ…という性格(?)がわざわいして、清く正しく美しい理想とはほど遠い毎日です。

『なんだこの作者は？ 読点のつけ方がおかしいぞ。もっと日本語を勉強しろよな』

『日本の教育はまちがってる！ こんなこと、小学生に教えてどうするんだ！！』

などなど、キーボードをたたきながら、文句を言う始末。

その昔には、黙々と仕事をする人だと言われたこともある私ですが、どこかで道を誤ったようです。でも、今の日本って、納得できないことが多いですよ。皆さん、一度この件についておしゃべりしませんか？（あらあら、また点訳をサボってしまいそうですヨ）（いまがわ ゆみこ）

Q

私が迷ったマスアケ 「なくなる」

- (1) 15年という歳月が町並みを変え、昔の面影など何処にもなくなってしまっていることを知って……
- (2) ……したら、もともともなくなる
- (3) しかも公害は依然としてなくならず、……
- (4) 恐怖も次第になくなっていった。
- (5) 怖いものは、何もなくなった。

A

ご質問の(1)～(5)は、いずれも「消滅する」という意味をあらわし、四段活用の動詞ですから切って書くことはできません。

このほか、動詞の「ナクナル」には、①亡くなる、②紛失するという意味の用法があります。

①の例：それは、父がナクナル直前まで愛用していた腕時計です。

②の例：引出しに入れておいた鍵がナクナッテしまったの。誰が持ち出したのか知らない？

「ナクナル」で分かち書きするのは、①形容詞(ナイの活用形)＋ナル(動詞)と、②打ち消しの助動詞＋ナル(動詞)の場合です。

①の例：近くに商店街ができたので、昔ほど静かでナクナりました。

手紙には「同室の人とも親しくなったので、もう寂しくナクナッタ」と書いてある。

②の例：老眼になってから新聞を丁寧に読まナクナリましてね……

この頃は流行が昔ほど長続きしナクナッタように思いますが……

尚、「なくなる」については、『点訳通信』16号(1994年5月15日号)に「ナクナルとナク◇ナルについて」という見出しで解説が出ていますので、それをご参照ください。

Q

『点訳通信 第22号』の「Q&A」で、「その上」の説明がありましたが、回答がありませんでしたので、もう一度回答をお願いします。

A

申し訳ありませんでした。あらためてお答えいたします。

①ご質問の例文に用いられていた「その上」は、説明からお解りいただけると思いますが、分ち書きする例です。

②「その上」の後に助詞の「てにをは」が続くような場合は、22号[A]の[I]に該当することが多いので、それも目安にしてみてください。

[例] その上美味しい食事にありつけば言うこと無しだ。 ……続ける  
その上で、美味しい食事にありつけば言うこと無しだ……切る

その上ノルマまで課せられたのではたまったもんじゃない ……続ける  
その上にノルマまで課せられたのではたまったもんじゃない……切る

### ミニミニ点訳講座

## 見出しについて

今「見出しの書き方」について特に混乱していると言うわけではありませんが、一通り整理しておきます。

- (1) 見出しが3種類（大見出し・中見だし・小見出し）の場合は、見出しの大きい順に、行頭8マスあけ・6マスあけ・4マスあけとします。
- (2) 見出しが長くて1行に入りきらない場合は、2行目以降を1行目より2マス下げとします。
- (3) 見出しが2種類の場合は、行頭6マスあけ・4マスあけの使用を推奨します。
- (4) 見出しの大きさが1種類の場合は、行頭6マスあけを推奨します。
- (5) 上記に関わらず、「前書き」「あとがき」「凡例」「著者紹介」等の見出しは、行頭6マスあけとし、「目次」での扱いはその本の最も大きな見出しの書き出し位置とあわせませす。
- (6) 「目次」「奥付」は行の中央に書き、次の行に12マスの区切り線を引きます（1行32マスの場合）。なお、1行30マスの場合は、区切り線は10マスとなります。
- (7) 見出しに段階を示す編・章節などの用語が用いられていたり、数字や符号を付して段階を示している場合で、見出しの大きさの種類が4種類以上ある場合には、違う段階の見出しの行頭からの



しを行頭4マスあけて、見出し全体をカッコでくくると言う方法もあります。

## 2 校者の集まりのご報告

去る6月23日に、2校者の集まりがあり13人の方が出席されて、センターからは校正表の書き方を統一してほしいこと、2校者からは検索性用フロッピーを貸し出してほしいことなどの話し合いがおこなわれました。以下、センターからのお返事もかねてご報告申し上げます。

### 1 センターからの要望として

※不審に思ったものは全て書き出しておいてください。

※返却された校正表について腑に落ちない箇所があったら、点訳された方も2校者も、ためらわずに森さんにお尋ねくださいとのこと。

### 2 校正表の書き方について

(以下の行数は全て機械行数、従ってページ数行を1行目とする)

2行目 7マスめから 原本タイトル (副題は不要)

3行目 7マスめから 2校者氏名

4行目 5マスめから 巻数

5行目 3マスめから 機械ページ数 機械行数 2マス空けて 誤 → 正

【ページ数と行数の間は、ツナギ符(3,6の点)でつなぐ】

※誤りかどうか疑問の場合は、誤 → 正(?)とします。

※固有名詞等の読み違い、その他同じ間違いが数カ所以上あるときは、その都度記す必要はなく、この他数カ所あり検索でお願いします、と記します。ただし、その巻のみでなく、何巻にもわたってその間違いがある場合は、巻が変わるごとに、その旨記入しておいてください。

※本来なら空行が必要なのに空いていない場合は、その空けるべき行の次行の行数と、その次行に書かれている文言を少し書いて、この前を1行空けると記します。

(例) 35-7 打ち寄せる波の → この前を1行空ける

### 3 検索性用フロッピーの貸し出しについて

2校をしながら、かなり読み進んだところで、「何だかこれと同じような言葉が前にもあったような気がするが・・・」と思って、さてそれを探そうと原本を繰ってもなかなか見つからず、手許にフロッピーがあれば検索で探せるのに、との声があがりました。

この様な時は、検索性用フロッピーを貸していただける事になりましたので、ご遠慮なく木村さんにお申し出ください。

### 4 点訳された方へのメッセージがあったら

2校をしていて、自分がその語を校正表に書き出した理由、準拠した辞書名など、点訳された方に伝えたい事があったら、墨字で打ち出されたものの、其の語の右側の余白に書き込んで、必要なページだけ切り取ってお返すのはどうでしょうか。

どのように入力したかも忘れてしまった頃に校正表や原本が返ってきてもなかなか思い出せないものですが、墨字で打ち出されたものを見れば何だか思い出せるような気がするのです。

(この場合、単なる入力ミスによる誤字等は切り取ってお返す分には入りません。)



スキンシップ

チャンピオンシップ

フレンドシップ

リーダーシップ

スポーツマンシップ

アメリカナイズ

シンクロナイズド

テクノロジーカル

バイオロジカル

ビジネスライク

あなたならどうする？

最近、本の内容が多様になり、レイアウトや記号類の扱いなどが複雑（むしろ乱雑と言いたいほど）になって、点訳者泣かせの原本が増えています。このコーナーでは、そのような“例”について皆さんとともに考え、多角的な視点で点訳の処理を考えていきたいと思えます。毎回、例題(?)を載せますので、「私ならこうする」という投稿をお寄せ下さい。また、「こんなのはどうしましょう」という問題提起も歓迎いたします。

原稿は3階の木村か、またはピンクの箱に入れて下さい。たくさんの方の投稿をお待ちしています。

#### 景気浮揚の基礎科学

不景気対策ということだそうで、わが国では1993年も、補正予算が大々的に編成されました。政府がお金をもうけてもらいたいと思う人に、お金をバラまくのが補正予算の目的です。つまり、「不景気対策」というわけです。

1992年の補正予算は「施設」関係ばかりが通りました。最終段階まで、採用になる、と思われていた予算が、土壇場で、施設関係に切り替えられたなんてザラだったそうです。といってもピンと来ないかもしれませんね。「施設」って「土建」のことなんです。去年は、土建業界にお金をバラまくための補正予算だったというわけです。

1993年は「新社会基盤」という????な触れ込みです。したがって大学関係にもかなり回ってくるのだそうです。もう「公共事業」で土建屋さんにバラまこうにも「事業」するところがなくなってしまったのです。大学なら施設が荒れ放題だからかなりお金をバラまける、そんな話なのでしょう。

[注] 『1993年は「新社会基盤」という????な触れ込みです。』はどの様に点訳されますか？ 下線は分かりやすくするために引いたもので、点訳とは関係ありません。

#### 教育論の非科学

面高家に夕食をよばれたときのことで。お兄ちゃんの俊樹君が妹のみさきちゃんにボタンの穴かがりを教えてあげていました。うまくいなくて半分かんしゃくだったみゆきちゃん、やっごきげんをなおしたようです。

そんなことで驚いたり感激したりしたりしているのはもう時代遅れなのでしょう。でもそれとまったく反対のことも聞きますね。①「近ごろの子供って できないんだってね」というセリフです。そして人々は学校教育、過程教育、社会教育を嘆くのです。

その議論、ホントにバカげていてきらいです。それに、そんな議論する人って、決まって偉そうに、鼻の穴を大きく広げてしゃべるでしょ。そんな人ってタンポポの種みたいはどこかに飛んでいってしまえばいいと思うんです（もっとも飛んでいった先で繁殖するともっといやですね）。

②近ごろの子供たちにできない と##、大人になってから必要のないことばかりです。そんなものを習うこと、大人が許していないのです。「いい学校」に入って、「いい大人」になることを大人たちは願っているのです。③や##ができたって大人たちは喜ばない、子供たちがなによりもわかっているから、④子供たちは や##ができるようにならないのです。

今の世の中、どんなことでもお金でできてしまいます。ボタンの穴かがりだって、⑤##だって だって、みんなお金でできてしまいます。人間のところがそっちの方にシフトしてしまっているのです。それが学校教育、社会教育、家庭教育に反映しているだけのことです。そして、鼻の穴を大きくふくらませて、偉そうに教育を嘆く人たちこそがその真犯人なのです。

①から④の下線の部分はどの様に点訳されますか。

投 稿

## 『点訳通信』第21号「校正表から」を読んで

かつて(?)点字板やタイプライターを使って点訳していた頃は、自分の打った点字を1行づつ読みなおして、誤りがあれば修正したり、1枚ごと書き直したりしました。点字が読めなければ点訳はできないこととなります。ですから、点字を書くことと読むことを一つの作業として体得するのは当然のことだったのです。たいていの場合、点字用紙の表裏両面に点字を打ちますから、書き直しはうんざりする作業です。更に、濁点が一つ抜けたり、マスアケの勘違いで行末の言葉が次行へずれ込んだために何枚にも被害が及ぶ場合などは、少なからず落ち込んでしまうのです。講習からパソコン点訳でスタートされた方々には想像し難い事柄だろうと思います。

今、点訳書の大半がコンピュータ点訳によって作られるようになり、点訳=パソコン入力のような状況になり、点訳者気質も変化しつつあるように感じます。『点訳通信』の文面にあるように“点字の読めない点訳者”がますます増えていくに違いありません。そのようなボランティアに優れた点訳書が作れないかどうか、優れた点訳書とはどんな物を指すのか、いろいろ議論のあるところでしょうが、少なくとも、読者、点字図書館等の施設、点訳ボランティアがそれぞれの立場で、現に起こりつつある現象を受け止めないわけにはいかないと考えます。

「隣人と共に生きることなんて、人間にはできませんよ」

3月のはじめ頃、阪神・淡路大震災の被災地にある教会を訪ねた時のH牧師の言葉です。どんなに思いを尽くし心を尽くして相手を思いやっても、その人と同じ処に立つことなどできない、できると思うならそれは思い上がりだと、その方は言われました。

『点訳通信』第21号の「校正表から」の文章を読んだ時、何故かH牧師の言葉が思い起こされました。視ることをできる者が、視ることをできない人たちと共に生きることなどできないのは確かな現実ですが、いくつかの点で接点を見出し、共有できる事柄があることも確かです。点訳にもそのこ



とが言えるだろうと考えます。

点訳の作業をする時、私たちは視るという動作と読み取る（あるいは理解する）動作を同時進行で行っています。点訳された物を点字で読む時には、文字を識別する作業と文章を読む作業が僅かな時間差をもって進行するのです。ところが墨字で打ち出された原稿だけを読んでいると、この僅かな時間差から察知する“点字的感覚”が体験できないのです。レイアウトや点訳語（？）に対する理解、引いては図や表の処理などを、この“点字的感覚”が少なからず左右しているに違いないと、私は感じています。

点字が読めない者に優れた点訳ができるかどうかという議論よりも、視覚障害をもつ人たちとボランティアがどれだけ多くの物を共有しあえるかというところで考えて行くことが大切なのではないのでしょうか。

「人は、隣人と共に生きることができない」という現実をいつも肝に銘じつつ、僅かでもそこへ近付こうとする希望は失わずに、点訳を視覚障害者の方たちとのパイプとして、読む楽しさを共有して行きたいなと願っています。 (ふるやとよこ)

## 難読漢字コーナ

「辞書ほどあてにならぬものはない。しかし辞書ほど頼りになるものはない」 こんな意味の言葉を残したのはシェークスピアだったのでしょうか（確かなことをご存知の方は教えてください）。

辞書に複数の読みが書いてあるだけで、それぞれの用法までは載っていない場合“頼りない辞書”を痛感することがあります。

読みによって意味が全く変わってしまう場合、意味はほとんどおなじでもニュアンスが違う場合など、点訳者にとって頭の痛い言葉は日本語のなかにたくさんあります（勿論どちらに読んでも、文章の流れに影響することがない場合もありますが）。本当の意味で“難読”というのは、こんな言葉かも知れません。

言葉は時代とともに変わっていくものではありませんが、反面、長年使われつづけてきた言葉のきまりのようなものもあり、辞書にどちらの読みもあるからと、安易にくずしていくのはどうかと思います。よく点訳者の言葉のセンス云々といわれるのは、こんな点でしょうか。今回はそのような言葉の例を少しばかりですがあげてみました（一般の読み物の中の言葉です）。

他（ほか、た）

- \*ここにも彼の姿はない。他（ほか）の電車に乗ってしまったのだろうか。
- \*思ったとおりの長い列だ。他（ほか）に電話はないのだろうか。
- \*人を説得することにかけては、他（た）に追従を許さない。

後（ご、あと、のち）

- \*その後（ご）の調べで、彼もまた事件に深くかかわっていたことが判明した。
- \*会議は終わった。彼の出番はその後（あと）である。
- \*その後（ご）彼は数回訪れたが、その後（あと）は全く来なくなってしまった。
- \*彼女の作品は後（のち）の世にも重いテーマを投げかけながら、読み継がれていくにちがいない。

数（すう、かず）

\*勝敗の数（すう）すでに定まれり。

\*数（かず）を数えればきりが無い。

類（るい、たぐい）

\*世界戦史に類（るい）をみない作戦が展開された。

\*塩・砂糖・醤油・酢など調味料の類（たぐい）は、すぐ手の届くところに……

パソコン点訳講座 (BASE編)

この記事は、NIFTY-Serveの「F E Y E B A S E」より筆者の許可を得て、転載するものです。

## BASE 応用操作・ヘッダー異常！

さて、BASE 応用操作も、もう書くべき事は無くなってしまいました。

今日はBASEで起きるエラーの中で一つだけ「ヘッダー異常」の対処法を説明します。他のエラーについては、BASE.DOCの末尾に対策が書かれていますのでお読みください。

BASEでこのメッセージが出るケースは2種類あります。一つは、本当にヘッダーが壊れている場合、二つ目は、BSEデータで無いものを読み込んだ場合です。何でもいいですから、BASEでテキストデータを読み込んでみましょう。「ヘッダー異常です」と表示されて読み込めません。

さて、問題は、本当にBSEデータのヘッダーが壊れている場合です。BSEデータは単なるテキストデータですから、エディターで読み込む事ができます。当然編集ができるわけで、ヘッダー（最初の連続した512バイト）部分が修正されてしまう場合も無いとは限りません。1文字でもヘッダー一部分が変更されると、ヘッダー異常となる場合があります。

せっかく苦労して打ち込んだデータがヘッダー異常で読み込めないと、大変残念な事になります。このような場合は、正しいヘッダーを付けてやれば元に戻ります。

さて、ヘッダーを正常にする為には、二つの方法があります。

### (1) TDCを使う方法。

エディターでBSEファイルを読み込みます。以下のような形式になっています。以下の6行の空白（ $80 \times 6 = 480$ 字）と、24文字の空白と、「02363222」の8文字、合計512文字分がヘッダーです。

まず、このヘッダー部分を取り去ります。最初の空行を1行削除します。512バイトは連続していますので、1行削除すると、7行分が一度に削除されます。「LX@R:3"X ;,FEYE "W3@W」の前の行以下が残ります。これを、拡張子「TXN」として保存します。そして、TDCで「NAB

CC」→「BASE」の変換をします。すると、拡張子がBSEのデータができあがり、正常に読み込めます。なお、ヘッダー内に改行コードが入ってしまったものに付いては、1行の削除でヘッダー部分全部が削除されませんので、何回か削除を行います。

「02363222」のような数字の羅列が、ヘッダーの末尾です。

-----

【この空白部分がヘッダー】

02363222←ここまで。

LX@R:3"X ;,,FEYE "W3@W

BN< BRJ3 @T

33333333333333333333

,UW[0 Q0/%S Q"V<

33333333333333333333

"OB#A\*0

7"]0 #C\*07

-----

(2) ヘッダーを貼り付ける方法。

正常に読み込めるBSEデータを用意します。エディターで読み込み、ヘッダー部分（最初の7行）だけを別ファイルとして書き出します。HEAD.TXT という名前で書き出したとします。そして異常のあるBSEデータのヘッダー部分を削除したものの先頭に、このファイルを貼り付ければ、正常なデータができあがります。

この方法は、別ファイルとして書き出すヘッダー部分、ヘッダー部分を削除したBSEファイルに過不足があってはなりません。例えば、ヘッダー部分を削除したつもりで、もう1行削除してしまったデータにヘッダー部分を貼り付けたデータをBASEで読むと以下ようになります。

-----

19:

20: ◇◇◇◇ :: :: :: ◇◇ :: :: :: :: :: :: ◇ :: :: :: :: :: :: ::

21:



## ○EMSとは

Expanded Memory Specification (よーするに640KB以上の拡張メモリの管理方法の一つです)の略。MS-DOSでは640KBが主記憶容量の限界でした。これは、かつての多くのアプリケーションがそれほど大きなサイズではなかったことと、所詮パソコンなのでそんなに大それた仕事など要求しないよ、ということでこの辺に線引きされたのでしょう。

実際初期の有名なハードでも主記憶メモリは128KBしか積んでいなかったですし、初期の有名なソフトも64KBメモリがあれば動くといった、平和な時代があったのです。しかし現在はどうでしょう？ 主記憶640KBは当たり前、日本語WINDOWSを使うなら2MB以上が望ましい、快適性を言うなら4MB以上、果ては8MB以上を要求するOS/2の登場などなど、急速に状況は変わってきています。ことはOS関係だけではなく、ユーティリティーにも及んでいます。これは使用者のいろいろな要望を盛り込み、改訂の度に機能性を大幅に上げて来た結果です。

話をEMSに戻しましょう。EMSが普及したのは、某有名ワープロソフトのおかげと言っても過言ではないでしょう。なにせ一番売れている現行版のそのソフトはEMSとハードディスクがなければ使いものにならないのですから。

## ケーススタディ その1

初心者がようやく奥さんを説得してパソコンとディスプレイを買う → まずはワープロから、とソフトを物色する → 評判につられて超有名ソフトを買う → EMSとHD(ハードディスク)の必要なことがわかる → EMSボードとHDをいやおうなく買う羽目になる → タバコをやめ、同僚との付き合い酒も減らさざるをえない。

## ケーススタディ その2

中級者がバージョンアップサービスで超有名ワープロソフト最新版を入手する(それまではVer.3を使っていた) → 入手したはいいけどEMSが無いので、改訂に伴う最新機能が使えず不満がくすぶる → 仕方がないのでEMSボードを購入 → 購入費用がそのソフトの売値くらいだったので安かったのか高かったのかわからずに悩む → さらに、最新版はVer.3よりも遅くなったような感じがして、いったい自分は何に金を使ったのかでまた悩む。

## ケーススタディ その3

自称パワーユーザーが超有名ワープロソフトの入手を機に増設メモリを購入する → 主記憶の増設分を仮想EMSとして利用するため、CONFIG.SYSをいじり始める → ついでにRAMディスクとディスクキャッシュとプリンタスプーラも設定しようとあがく → CONFIG.

SYS をいじくりまわす → 他社の仮想EMSドライバの方が高速であることを知る → そのドライバを入手し、また CONFIG.SYS をいじくりまわす → どうも他社のドライバではプリンタスプーラがうまく動かない → またまた CONFIG.SYS をいじくりまわす → いつまで経っても本来の仕事は進まない。

以上は特に1990年から1991年前半頃にかけて、どこでも見られた光景です。このように、EMSの普及期にはそれにまつわる悲しい話がたくさん聞かれました。

## ○プロテクトメモリとは

80286以上のCPUにはプロテクトモードと呼ばれるメモリが増設できます。本来MS-DOSでは主記憶の上限が640KBと決まっていますが、別にそれ以上メモリがあってもよいわけで、増設される2MBとか4MBとか16MBの分はプロテクトモードメモリとして利用されます。

利用法としては、日電機系ではEMSやRAMディスク、ディスクキャッシュ（それぞれの項参照）などが多いでしょう。IBM互換機系とWINDOWSではXMSやディスクキャッシュということになります。

32ビットCPUのマシンで、32ビットバスでアクセスできるメモリの場合は高速なデータ処理が期待できます。しかし、日電機系では16ビットバスに入れるプロテクトメモリボードなどもその昔には横行していましたので、いまだにこれを入れている人は注意が必要です。

XMSとは、WINDOWSの386エンハンスドモードで主記憶内容の一時的な待避所となり、疑似マルチタスクの実現に利用されるような領域で、多ければ多いほどWINDOWSが快適に走るようになります。最近のIBM互換機系では（特にWINDOWSを中心に使う場合）8MB以上のプロテクトメモリを用意しておくのが常識となってきたようです。

## \*ROM/RAMとは

ROM（リード・オンリー・メモリ）とは“読み出し専用”メモリ、つまり音楽用のCD（コンパクトディスク）のようなものだと考えて下さい。これに対し、RAM（ランダム・アクセス・メモリ）とは“読み書き自由な”メモリ、つまり自分で録音ができるテープとか書き込みのできるノートのようなものです。

あなたのお好きな？ ファミコンはCPUとROMで出来ています。本体にはCPUとROMが入っており、ソフトはROMです。これはもう既にできあがったプログラムが入っていて、ユーザーが勝手にプログラムをいじれないようになっているわけです。

これに対してパソコンにはCPU/ROM/RAMが入っています。パソコンのROMにはBIOS（バイオス）と呼ばれる基本ソフトが大抵は入っています。RAMはいろいろなプログラム（アプリケーションソフト）を読み込みます。また皆さんが入力した文字や数字もここに入ります。

## \*RAMディスクとは

フロッピーディスクは目で見えますし、動作中はジーコジーコ音を立てるので、なんか機械が動い

ているのかな？ という感じがするでしょう。実際、磁気ヘッドがディスク上を動いてデータの読み書きをしているのです。

RAMのところで「これは読み書き自由なメモリです」と説明しましたが、この「読み書きの自由性」を利用してRAMをフロッピーディスクのように見立てたものがRAMディスクです。実際にはモーターがあってディスクが回っているわけではないのですが、想像上のフロッピーディスクドライブということで、「仮想ドライブ」と呼んだりもします。

RAMディスクは機械的なヘッドの動きがなく、電氣的にデータにアクセスするだけですから読み書きが非常に高速です。

RAMをRAMディスクとするには、そのためのデバイスドライバをconfig.sysなどで組み込んで、「RAMこの部分を仮想ドライブとして使用しますよ」と宣言する必要があります。

また、RAMディスクとするメモリは別の電源による記憶保持動作がされていないことがほとんどですから、電源を落とすとディスクの内容はすべて飛んでしまいます。このことに充分注意して使う必要があります。

## \*ディスクキャッシュとは

ディスクキャッシュ、あるいはただ単にキャッシュと呼んだりしますが、これはちょっと複雑です。

前項で、RAMディスクは速いですという説明をしました。実際フロッピーディスクからデータを読み込むのにはかなりの時間がかかりますから、同じデータを何度も参照しなければならないような作業では、読みに行く先がフロッピーかRAMディスクかで大きな差がでます。

例えばかな漢字変換の辞書をフロッピーディスクに置くと、変換の度に辞書に読みに行きますから入力したかなが漢字に変換されるまでに少し“間”があります。この“間”は結構気になるもので、思考が妨げられるようでどうにもワープロでの文章作成は向かないという人が結構いるのではないのでしょうか？

しかし、辞書をRAMディスクに置いたらどうでしょう。かなり快適な速度で変換が行なわれることでしょう。ただ、RAMディスクは電源を切るとその内容が失われてしまうわけですから、毎回起動の度に辞書をRAMディスクにコピーしてやる必要があります。また、辞書登録などをしたときはRAMディスクから保存版のフロッピーに書き戻す必要があります。これは結構面倒な作業で、執筆中の集中度という点では良くてもその前後の作業で時間がかかってトータルの作業効率を上昇していないという結果になりかねません。

そこで、キャッシュという概念が生まれました。これは、基本的にデータをディスクの上に置いたままなのですが、一度読みに行ったデータは高速なデバイス（たとえばRAM）の上にも書き込まれ、また同じデータを読むときには今度は高速なデバイス上から読み出すようにする仕組みです。

例えば、フロッピーディスク上にかな漢字変換の辞書があっても、何度も読まれる領域はキャッシュメモリ上に蓄えられていることとなり、ここにアクセスするだけで必要な情報が得られますから、高速なかな漢字変換が可能となるわけです。もちろん最初の1回はフロッピーディスクから読み出しますので、この時だけ多少時間がかかりますが、後は何回でも高速なアクセスとなります。また、書き込み（書き換え）の場合は、キャッシュメモリにもフロッピーディスクにも書き込まれるので、データの保存などで煩わされることはありません。

これもRAMディスクと同様に、そのためのデバイスドライバをconfig.sysなどで組み込んで、「RAMこの部分をキャッシュメモリとして使用しますよ」と宣言する必要があります。

どのくらいのメモリをキャッシュに割り当てるかは、どのような目的に使うかによって変わってき

ます。かな漢字変換の辞書をまるまるキャッシュ上に置きたいならば辞書の大きさに見合ったキャッシュメモリを用意して、起動後に

```
COPY ????.DIC NUL /B
```

```
~~~~~
```

辞書の名前

としておくと効果的です。さらにこの直後、キャッシングをロック（その方法は、デバイスドライバのマニュアルに書いてあるはずですが）してしまえば、高速なデバイス上に読み込まれたデータがこぼれることがなくなりますので、快適なかな漢字変換が行なえるでしょう。

辞書をまるまる置く場合には、RAM上に500K～1MB以上の余裕が必要となります。しかし、通常は128KBくらいをキャッシュとして設定しても、十分その効果がわかると思います。

⊗

## 掲 示 板

⊗

- ・読み方調べの辞書も、登録件数が10万件（一般用語8万件・人名1万8千件）に迫ろうとしています。データ量が増えるとともに、実践的なものになってきました。
- ・NECのかなり古いパソコン（VMII）が2台あります。必要な方に貸出しますのでお知らせ下さい。但し、点訳には十分な機能を有していますが、最近のWindowsソフトは使えません。
- ・今回より、皆さまに参加していただき、点訳方法の紙面座談会を開催したいと思います。ご意見をお待ちしています。また、こちらからお願いすることもあるかと思いますが、積極的に参加していただけるようお願いいたします。

⊗

⊗